

『青年塾』と初の連携事業スタート

「健康な家作り」建設部会が発足

私は、『夢甲斐塾』の塾長であると共に、自ら主宰する『青年塾』の塾長でもあります。私にとっては、『夢甲斐塾』も、『青年塾』も、まったく同じ線上に位置しています。即ち、同一の活動であると思っています。『青年塾』は、全国を五ブロックに分けて、北は北海道から、南は九州まで、有為の青年達を対象に、人間教育を行っています。その私から見ると、『夢甲斐塾』は、『青年塾』のもう一つのクラス、`山梨クラス`です。他のクラスは、地域ブロック単位ですが、山梨クラスだけは、一県単位です。

12年目にして、初めての画期的試み

しかし、残念ながら今までの十二年間、両者の間には取り立てて関連ある活動はありませんでした。唯一、両方で学んだ人、即ち、『夢甲斐塾』の塾生であり、『青年塾』の塾生であった人が二人いたことぐらいでした。それをお互いに不思議とも、何も思いませんでした。今回、両者の間に、`歴史的な出来事` (?) が起きました。『夢甲斐塾』と『青年塾』の有志が提携して、共同事業が立ち上げられたのです。私にとっては、こんなうれしいことはありません。また、これが契機となって、『夢甲斐塾』の諸君が、『青年塾』の諸君と活発に交流し、相乗効果が起きることを大いに期待しています。

共同事業とは、`健康な家づくり・建設部会`の発足です。

もともとこの話、『青年塾』の現役塾生である一人の女性が、自ら社長を務める会社が、今までの建設資材販売から、住宅建設に事業分野を拡大するに当たり、`健康な家作り`をテーマとしたいと相談を持ちかけてきたことから始まります。その時、その人が、「山梨にはこのテーマについて熱心に取り組んでいる建設関係者が多い」と話しました、私は、それを聞いて、『夢甲斐塾』にも、そのテーマに熱心に取り組んでいる人が多いから、是非訪ねてみたらと言いました。

それがきっかけとなり、昨年、北杜市に、『夢甲斐塾』で、`健康な家作り`に熱心に取り組んでいる人達と、『青年塾』の有志が一同に会しました。とにかく、志を同じくする人達は、話が早い。まして、私が指導させていただいた共通性があるので、みんなが打ち解け合うのに、時間は掛かりませんでした。いきなりから、何十年來の友達のように親しく交わり合いました。そして、「是非とも本格的にこの活動を継続していこう」となり、次回は、正式な発足の会合をしようと決まりました。

京都で、発足の会合を開く

そして開かれたのが、四月四日、京都での『建設部会』発足式です。『夢甲斐塾』

※裏に続く

の諸君と、『青年塾』の諸君が、合計二十人集まりました。いずれも、`健康に良い家作り`の一点において、同じ志の持ち主です。集まりは最初から、「修学旅行のような盛り上がり」と言うほど、和気あいあい、打ち解けたものでした。そしてみんながそれぞれ、自分がこだわり続けてきたことを発表し合いました。それは、いかなる高名な専門家の話よりも興味深く、身近で、素人の私もすっかり引き込まれてしまいました。参加者もまた、`一人にして一人にあらず`、一人で仕事をしていても、これだけの仲間、友達がいる心強さを実感したようでした。

志は、頭の中に留めるものではなく、実践するもの

志は、頭の中に留める抽象的な概念ではなく、「実践を通じて、具体的に実現していくもの」です。その観点に立つならば、おのずと、『夢甲斐塾』と『青年塾』にも接点が生まれてくるのが、今回、よく分かりました。そして、このつながりを、これから本格的に広げて行きたいと、密かに決心したことも事実であります。

『青年塾』では次に、「老人福祉部会」を立ち上げるために、関係の塾生諸君が準備に入りました。これもまた、立ち上げる時には、『夢甲斐塾』の諸君にも声を掛けるつもりです。夏には、地方政治家が手をつないで、「政治研究会」を立ち上げることも検討されています。これもまた、『夢甲斐塾』の諸君に声掛けするようにします。

また、『青年塾』では、被災地に`森の防潮堤`をつくるための植林運動、とりわけ、ドングリから苗を育てるプロジェクトに大々的に取り組む予定です。これにもまた、『夢甲斐塾』の諸君に参加していただきたいと思っています。組織は別でも、志は同じ。『夢甲斐塾』と『青年塾』が、具体的な志の実現のための実践活動で手をつなぐのは、必然の流れかもしれません。

成熟した民主主義を求めて

私は長い間、日本を変えるのは、政治の役割だと思ってきました。しかし、最近少し考え方が変わってきました。これだけ価値観の多様化した時代においては、政治家の方がはるかに時代の流れから遅れていると思うことがしばしばあります。まさに、`感性豊かな、志ある市民`の手による、`志の実践活動`こそが、新しい時代を創造していく気がしてならないのです。まさに、民主主義が、さらに成熟していくべきではないかと考えます。今回の活動は、『夢甲斐塾』と『青年塾』が連携して、新しい日本を創造する具体的な活動に着手することでもあります。

国は、中央の、エリートと呼ばれる人達の手で変わる時代ではないのです。辺鄙な片田舎にいても、時代の感性を先取りするような新しい、志ある実践が、世界的な情報網を通じて、あっという間に、世界を変えて行く。そんな時代ではないでしょうか。

「建設部会」の次回会合は、八月三日と四日、清里です。是非、ご関心のある人は、ご参加ください。

『夢甲斐塾』
塾長 上甲 晃